

合祀祭文（よふぼく）

これの○○分教会の祖霊社に只今厳かにお鎮まり下さいました故よふぼく△△△△刀自之霊の御前に天理教 分教会長

慎んで申し上げます

あわれ汝刀自は去る 月 日齡八十五歳という長命ながら 俄に現身をかくされたことは やはり痛ましく淋しい限りでございます

きはあれ人間というは身の内神のかしものかりものなれば生きるも出直すも親神様の妙なる御支配であり むしろなつてくる一切は大難どころか小難であり 尚それ以上にあとに続く一同を救きたい上からの親心 深い思召しの現れとお教え頂いておりますから 徒に歎き悲しむというよりも 本当は御礼申し上げるべきものと 一同これからの成人を期し”古き道ありて新しき道”と仰せられたお言葉を思い起こし 汝刀自のご生前を改めて偲ばせて頂いております

汝刀自は当教会の草分けの頃より初代会長夫妻の影の力となり 教会設立の際には信徒総代をつとめられた○○大人の妻として 又昭和○○年栄えあるよふぼくとなられた△△△△刀自の嫁として終始真実の限りを尽くして△△商店を支えられました 更に昭和○○年夫に先立たれ 続いて姑を来世に送り出した後も○○人の子供の養育に当り 末子○○氏が遂に一入前の店主として成人されるに至った今日迄 昭和○○年早々自らもよふぼくとなつて講社の責任を受け持ちつゝ粘り強く長年に亘る立場を立派につとめ抜かれました 影の苦勞を勇んで果たされたあの日この時を回想し厚く厚く感謝申し上げます

こゝに種々の味物を御前に供え 遺族を始め親しき人々が心を籠めて伏し拝む状を心よくお受け取り下さいまして△△講はもとより当教会につながる道の子供達の先々に更に陽氣ぐらしの実が見えて参りますよう 併せて汝刀自は来世よふぼくとしてより以上の御活躍と御多幸の人生を歩まれますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます